

SMAM・グローバルバランスファンド (機動的資産配分型)

【愛称】資産配分おまかせくん

追加型投信 / 内外 / 資産複合



「モーニングスターアワード・
ファンドオブザイヤー 2015」
バランス(安定成長)型 部門
優秀ファンド賞受賞

詳細はP28の「ファンドの
リスクおよび留意点
その他の留意点」を
ご覧ください。



資料の作成、設定・運用、お申込み



三井住友アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号

加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

はじめに

たくさんの料理が並ぶビュッフェ。さあ、何を選びましょう。

いらっしゃいませ！ 当店へようこそ。

やっぱり和食だね。
お魚と…あとは…。

絶対お肉。
お肉をたくさん食べるぞ。

和洋中…
何がいいか迷うな。
シェフおすすめBEST5
とかないのかな。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

選び方は様々です。いろいろ組み合わせることで
新たなおいしさの発見があるかもしれません。

好きなものを好きなだけ。
でもほかにもおいしいものがあるかも。

和食と洋食を
交互に少しずつ。
ちょっとよくばりかな。

和食、
洋食

シェフおすすめの
栄養バランスを考えた
組合せに。

肉だけ

バランス
よく

料理の特徴を考えると選択の幅が広がります。
組合せによる相乗効果で健康度がアップするかもしれません。

元気な体を
維持するための
エネルギー源



身体の基本的な
機能の働きを
サポート



組合せによる健康度アップのために、
料理の特徴を押さえていただくことが大事ですね。

投資も料理を選ぶのと同じように考えてみてはいかがでしょうか。

資産形成において大切なこと

- 1 投資をする資産の特徴を知る
- 2 バランスよく投資する



この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

▶ 資産形成において大切なこと

1 投資をする資産の特徴を知る

投資をする資産を大きく2つに分けて考えてみます。

株式

資産運用における
「攻めの資産」役の
位置付け

国内株式

外国株式

債券

資産運用における
「守りの資産」役の
位置付け

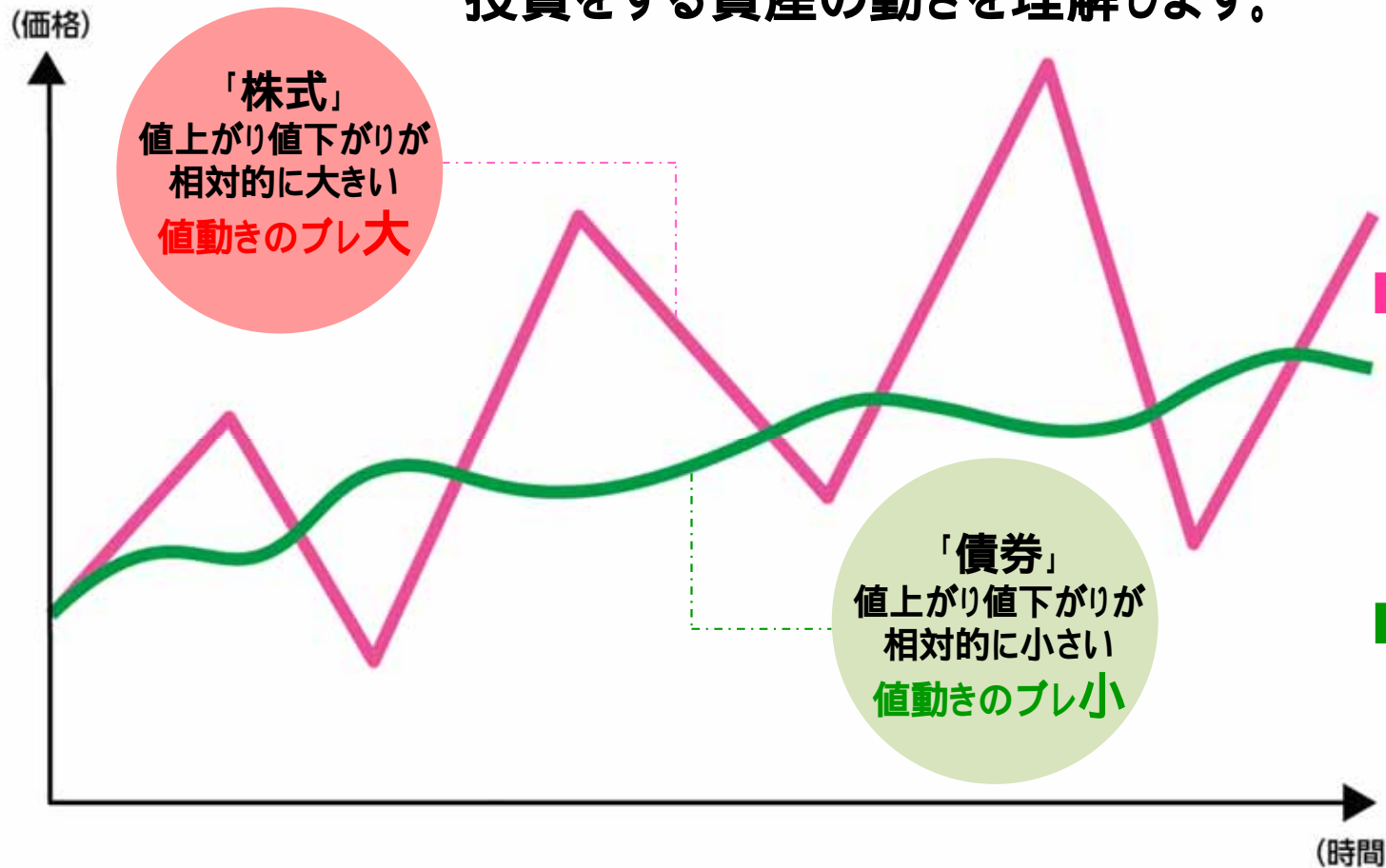
国内債券

外国債券

▶ 資産形成において大切なこと

1 投資をする資産の特徴を知る

投資をする資産の動きを理解します。



魅力は？

「株式」への投資では、一般的に景気が良い時には、**比較的大きな利益**を獲得できる機会を得ることができます。

「債券」への投資では、一般的に景気が悪い時には、**堅調な値動き**をすることに加え、**安定的な利息収入**を得ることができます。

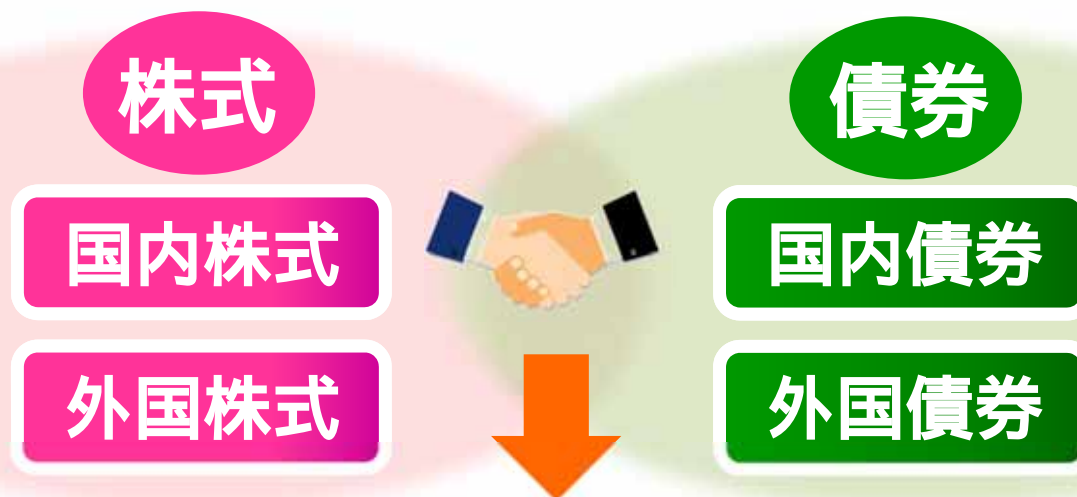
上記はイメージであり、実際とは異なる場合があります。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

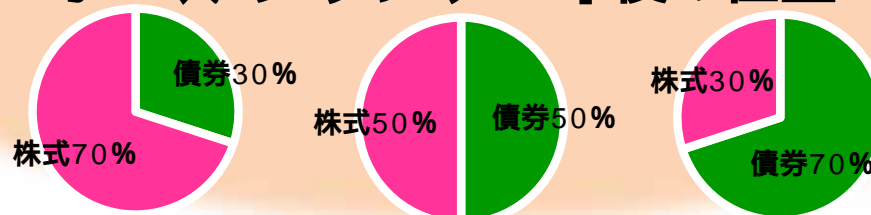
▶ 資産形成において大切なこと

2 バランスよく投資する

どれか1つではなく、大きく2つに分けた資産を組み合わせてみます。



「攻めの資産」と「守りの資産」を組み合わせて、
「オールラウンダー」役の位置づけ



「分散投資」
と言います。

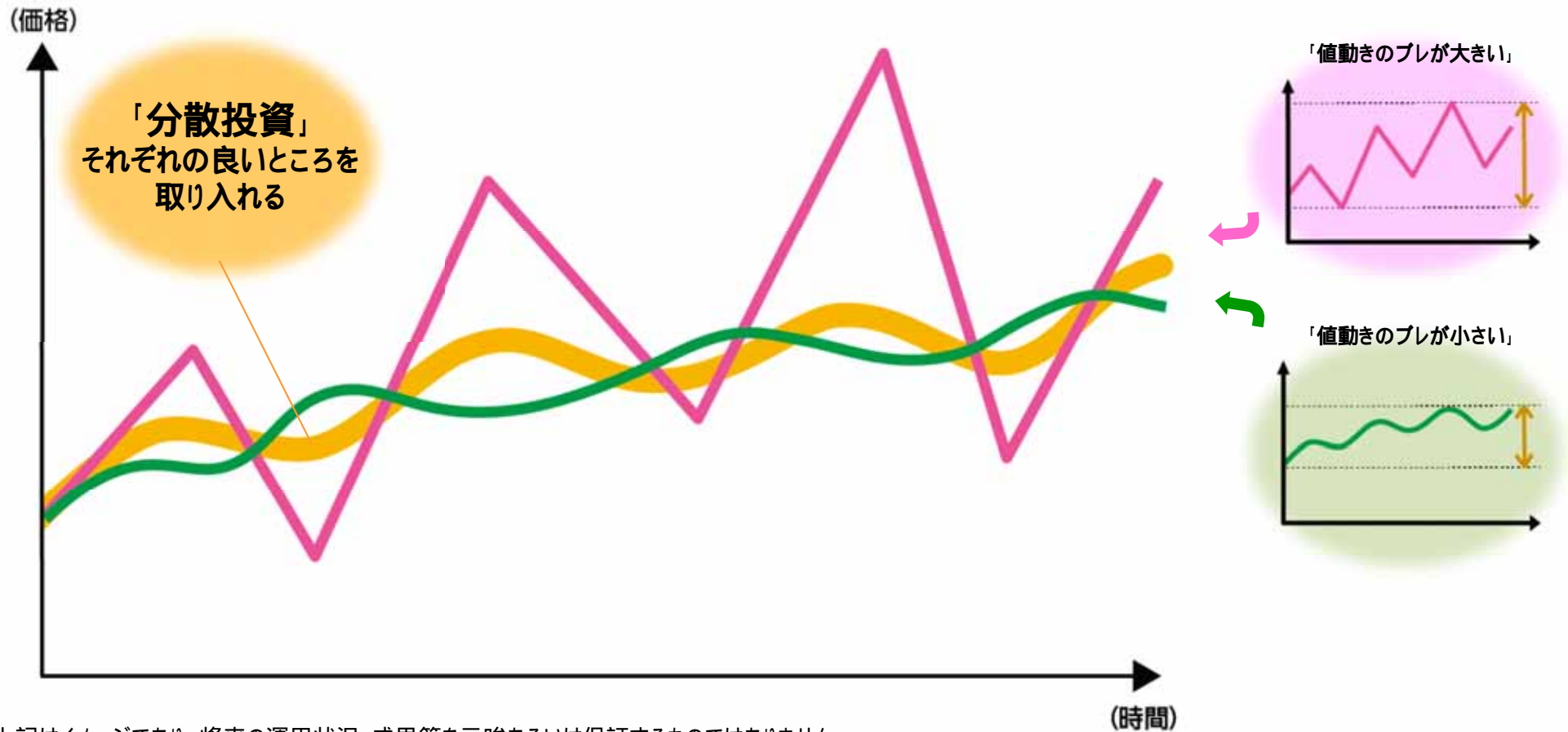
上記はイメージであり、将来の運用状況・成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

▶ 資産形成において大切なこと

2 バランスよく投資する

分散投資をすることで、各資産の良いところを取り入れることができます。



上記はイメージであり、将来の運用状況・成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

覚えて下さい「分散投資」

料理では…

組み合わせることで
おいしさの新たな発見

組合せによる
相乗効果で
健康度がアップ

投資では…

株式と債券、国内の資産と海外の資産。
組合せ次第で様々な動きが
みえてきます。

複数の資産に投資することで、
値動きのブレを軽減しながら収益を
得ることを狙います。

複数の資産に
投資することを
「分散投資」
と言います。



「分散投資」のポイント

複数の資産に投資すること・・・それが分散投資

複数の資産への投資で

収益獲得チャンスを
広げることができる

資産の値動きの
ブレを抑えた
運用が期待できる

過去のデータから「分散投資」の効果を見ていきましょう。

1 収益獲得チャンスを広げることができる「分散投資」

各資産のパフォーマンスをみると、順位と年間収益率は毎年のように変わっており、どの資産が次の年に優位な結果となるのかをあてることはとても難しいことがわかります。分散投資は、次に何が優位となるのかを考えなくてよい投資方法であるといえます。

幅広く網をはるように、チャンスを逃さない「分散投資」

各資産の年間リターン比較

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	10年間投資
1位	外国債券 4.5%	国内債券 3.4%	外国株式 37.7%	国内債券 2.4%	国内債券 1.9%	外国株式 31.9%	外国株式 54.8%	外国株式 21.4%	国内株式 12.1%	外国株式 5.4%	外国株式 56.6%
2位	外国株式 4.3%	外国債券 -15.5%	分散投資 13.4%	国内株式 1.0%	外国債券 0.2%	国内株式 20.9%	国内株式 54.4%	外国債券 16.4%	分散投資 2.1%	国内債券 3.0%	分散投資 37.2%
3位	国内債券 2.7%	分散投資 -28.6%	国内株式 7.6%	外国株式 -2.4%	分散投資 -5.8%	外国債券 20.4%	分散投資 32.0%	分散投資 13.1%	国内債券 1.1%	分散投資 1.9%	外国債券 32.2%
4位	分散投資 0.1%	国内株式 -40.6%	外国債券 7.4%	分散投資 -2.6%	外国株式 -8.9%	分散投資 18.7%	外国債券 22.7%	国内株式 10.3%	外国株式 -0.9%	国内株式 0.3%	国内債券 26.6%
5位	国内株式 -11.1%	外国株式 -52.6%	国内債券 1.4%	外国債券 -12.7%	国内株式 -17.0%	国内債券 1.9%	国内債券 2.0%	国内債券 4.2%	外国債券 -4.5%	外国債券 -3.0%	国内株式 10.1%

(注1) データは2007年～2016年。

(注2) 「国内株式」はTOPIX（東証株価指数、配当込み）、「国内債券」はNOMURA-BPI（総合）、「外国株式」はMSCIコクサイインデックス（円ベース）、「外国債券」はシティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）を使用。

(注3) 「分散投資」は「国内株式」、「国内債券」、「外国株式」、「外国債券」を1/4ずつとします。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

上記は過去のデータを基に当社が行ったシミュレーションの結果であり、当ファンドの運用実績ではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。一定の前提条件に基づくものであり、経費等は考慮されていません。実際の運用においては、市場動向等の諸条件が異なることによりパフォーマンス等は大きく異なります。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

1 収益獲得チャンスを広げることができる「分散投資」

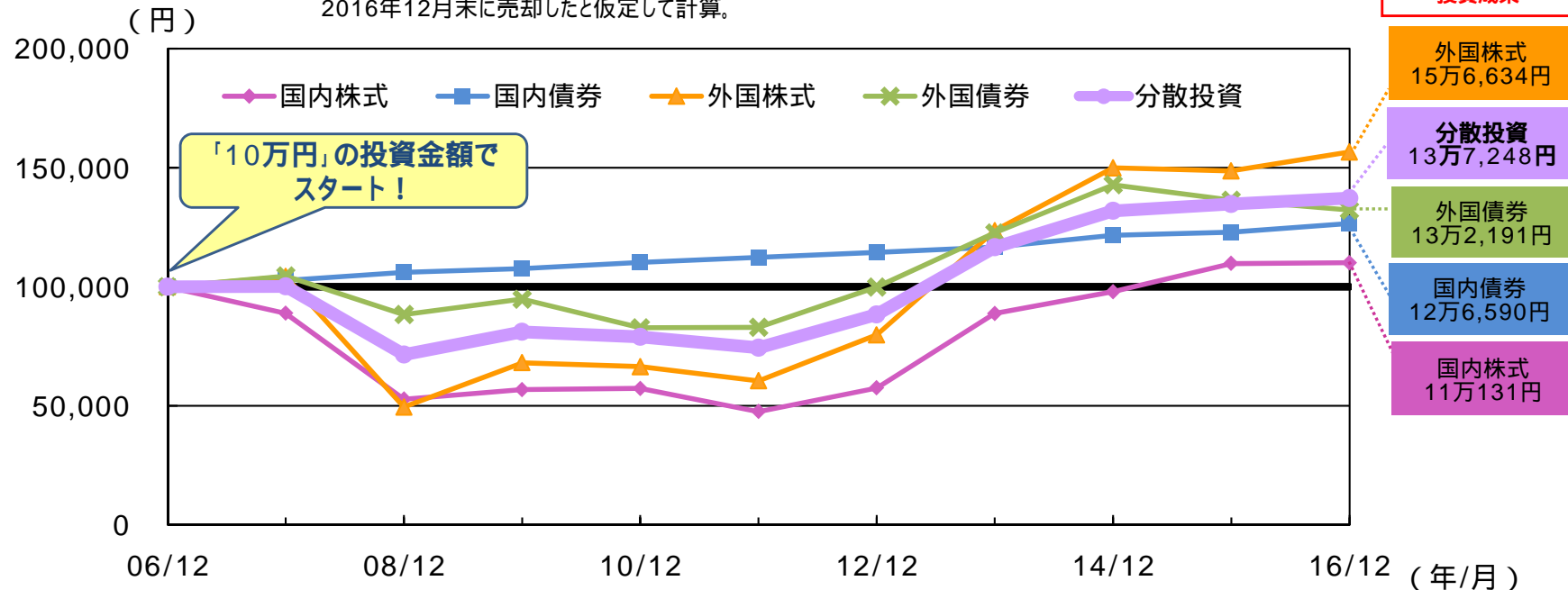
過去10年、世界的な景気後退や景気回復の波などを受け、各資産の価格もそれぞれ上下に変動しています。そうした中、「分散投資」のパフォーマンスは、相対的に良好な収益率を維持しています。

バランスの良い収益率の「分散投資」

投資シミュレーション

期間：2006年12月末～2016年12月末

前提条件：国内株式、国内債券、外国株式、外国債券、分散投資にそれぞれ10万円ずつ投資し、10年間保有し、2016年12月末に売却したと仮定して計算。



(注1) 「国内株式」はTOPIX（東証株価指数、配当込み）、「国内債券」はNOMURA-BPI（総合）、「外国株式」はMSCIコクサイインデックス（円ベース）、「外国債券」はシティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）を使用。

(注2) 「分散投資」は「国内株式」、「国内債券」、「外国株式」、「外国債券」を1/4ずつとします。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

上記は過去のデータを基に当社が行ったシミュレーションの結果であり、当ファンドの運用実績ではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。一定の前提条件に基づくものであり、経費等は考慮されていません。実際の運用においては、市場動向等の諸条件が異なることによりパフォーマンス等は大きく異なります。

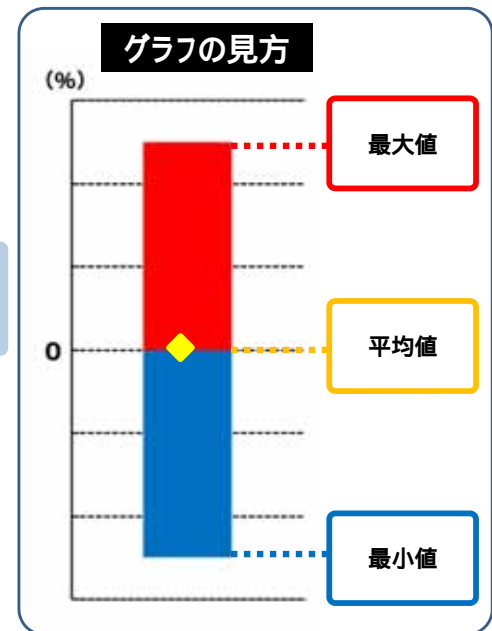
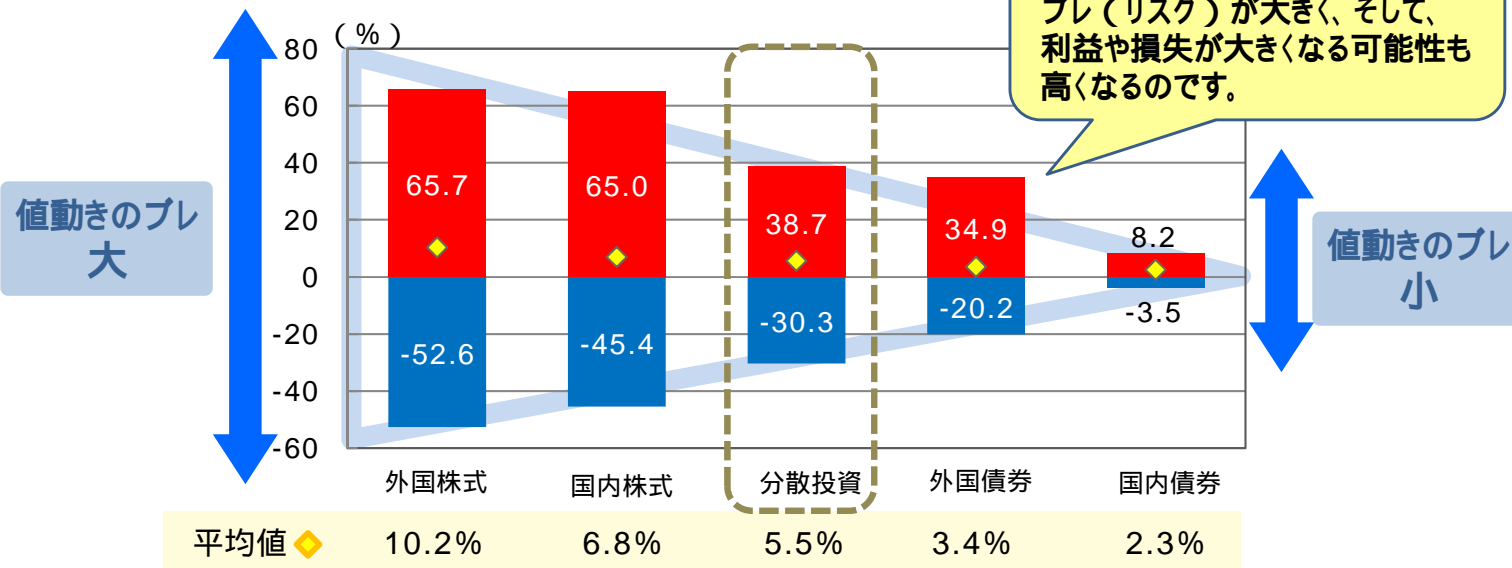
この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

2 資産の値動きのブレを抑えた運用が期待できる「分散投資」

各資産の値動きのブレを「リスク」といいます。値動きが大きければ、利益や損失が大きくなる可能性も高まります。一方、値動きが小さければ、大きな利益や大きな損失になりにくいといえます。

比較的値動きの大きい資産を組み入れながらもリスクを抑える「分散投資」

各資産の1年間の騰落率の比較



(注1) データは2008年10月～2017年10月の各月末時点から過去1年間の騰落率を基に算出。

(注2) 「国内株式」はTOPIX（東証株価指数、配当込み）、「国内債券」はNOMURA-BPI（総合）、「外国株式」はMSCIコクサイインデックス（円ベース）、「外国債券」はシティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）を使用。

(注3) 「分散投資」は「国内株式」、「国内債券」、「外国株式」、「外国債券」を1/4ずつとします。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

上記は過去のデータを基に当社が行ったシミュレーションの結果であり、当ファンドの運用実績ではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。一定の前提条件に基づくものであり、経費等は考慮されていません。実際の運用においては、市場動向等の諸条件が異なることによりパフォーマンス等は大きく異なります。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

2 資産の値動きのブレを抑えた運用が期待できる「分散投資」

「分散投資」では、比較的値動きの大きい「外国株式」や「国内株式」を組み入れながらも、比較的値動きの小さい「外国債券」や「国内債券」を組み入れることで、リターン（収益）を狙いつつ、リスク（値動きのブレ）を抑えることが期待できます。

比較的値動きの大きい資産を組み入れながらもリスクを抑える「分散投資」

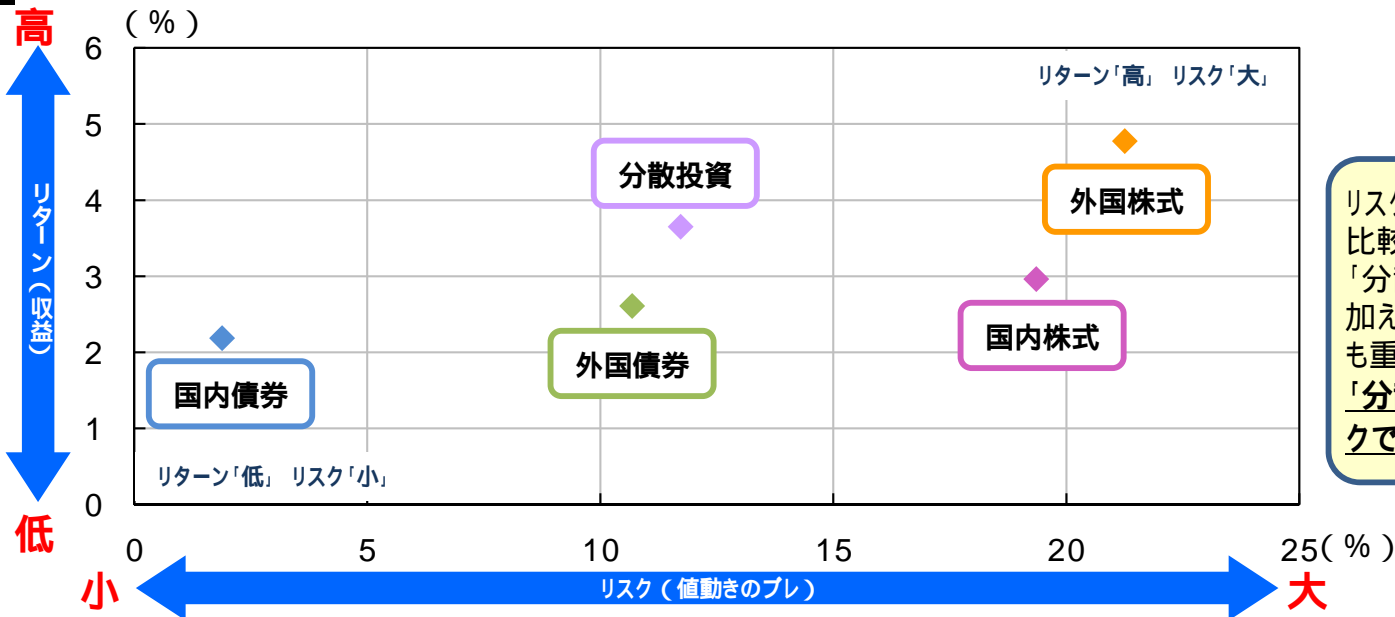
リスク・リターン比較

グラフの見方

右上に行くほど
リターンが高く、
リスクも大きい

左下に行くほど
リターンが低く、
リスクも小さい

ということを表しています。



リスクを抑えながらも
比較的高いリターンを狙うには、
「分散投資」が有効です。
加えて、その資産の配分方法
も重要になってきます。
「分散投資」は、比較的、低リス
クで高い収益が期待できます。

(注1) データは2007年10月末～2017年10月末。

(注2) 「国内株式」はTOPIX（東証株価指数、配当込み）、「国内債券」はNOMURA-BPI（総合）、「外国株式」はMSCIコクサインデックス（円ベース）、「外国債券」はシティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）を使用。

(注3) 「分散投資」は「国内株式」、「国内債券」、「外国株式」、「外国債券」を1/4ずつとします。

(注4) リターン（収益）は月次騰落率を、リスク（値動きのブレ）は月次騰落率の標準偏差を、それぞれ年換算して算出。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

上記は過去のデータを基に当社が行ったシミュレーションの結果であり、当ファンドの運用実績ではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。一定の前提条件に基づくものであり、経費等は考慮されていません。実際の運用においては、市場動向等の諸条件が異なることによりパフォーマンス等は大きく異なります。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

「分散投資」のポイントをもう一度確認

複数の資産を組み合わせて保有することで…

1 収益獲得チャンスを広げることができる。

2 資産の値動きのブレを抑えた運用が期待できる。

➡ いろいろな投資機会を逃したくないあなたに **分散投資**

➡ なるべく失敗したくないあなたに **分散投資**

➡ 何をしたら良いのかわからないあなたに **分散投資**

組合せを選べるのも「分散投資」の強み

株式と債券の組合せの割合（配分）を変えると
「分散投資」の幅が広がります。

たとえば、リスクを抑えることに
重点をおきつつ、
収益の獲得を期待する場合

「株式」 「債券」
3 : 7

たとえば、リスクを抑えながら、
ある程度積極的に
収益を追求する場合

「株式」 「債券」
5 : 5

たとえば、積極的に収益の
追求を行いながらも、
ある程度リスクを抑える場合

「株式」 「債券」
7 : 3

プロに配分をまかせるという「分散投資」もあります。

- 株式や債券の配分を自分で考えなくてもいい。
- 市場の様々な変動に対応して、プロが機動的に組合せを変えてくれる。



「株式」 「債券」
プロにおまかせ

SMAM・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）について

ファンドの特色

1

日本を含む世界各国の株式、公社債および短期金融資産に分散投資することにより、信託財産の着実な成長を目指した運用を行います。

実際の運用は、各資産に投資する5つのマザーファンドへの投資を通じて行います（ファミリーファンド方式）。

2

委託会社が独自に作成する基本資産配分に対し、一定の許容変動幅内で機動的に資産配分を変更します。

ファンドの基本資産配分ならびに各資産の許容変動幅

	国内株式	国内債券	外国株式	外国債券	短期金融資産
基本資産配分	20%	50%	10%	15%	5%
変動幅	5～35%	35～65%	0～25%	0～30%	0～20%

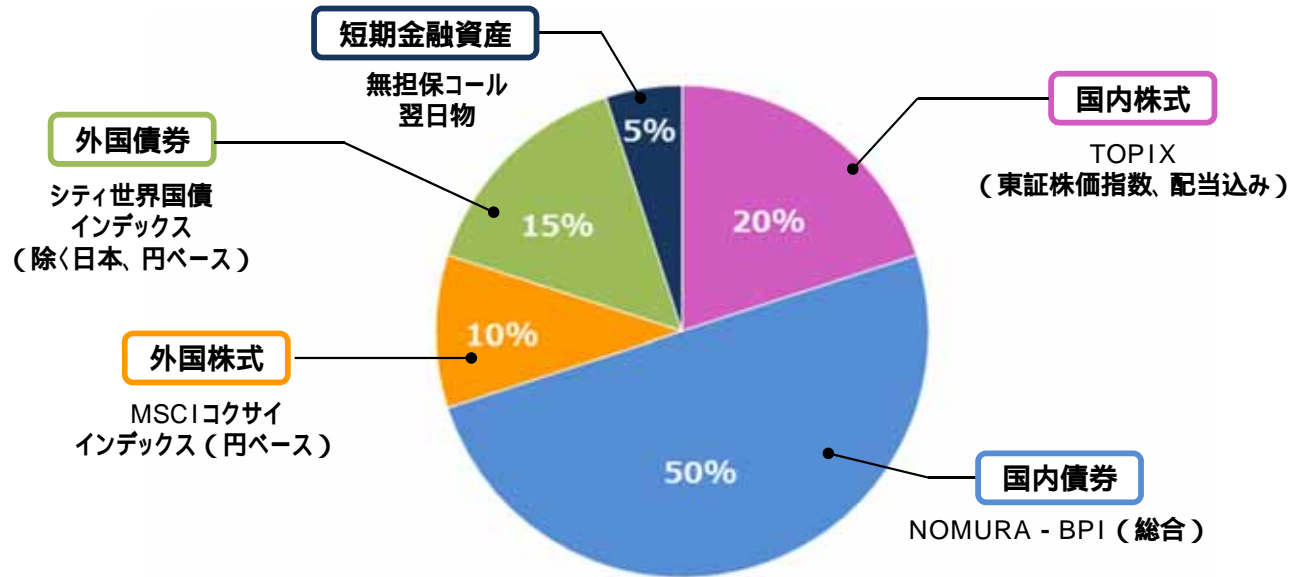
（注）基本資産配分は、5年に一回程度検証を行い、必要であれば見直しを行います。

SMAM・グローバルバランスファンド（機動的資産配分型）について

ファンドの特色

3

運用にあたっては、基本資産配分に基づいて、以下の指数を合成したベンチマークを上回る投資成果を目指します。



基本資産配分の見直しに伴い、ベンチマークの合成比率の見直しも行います。

4

実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

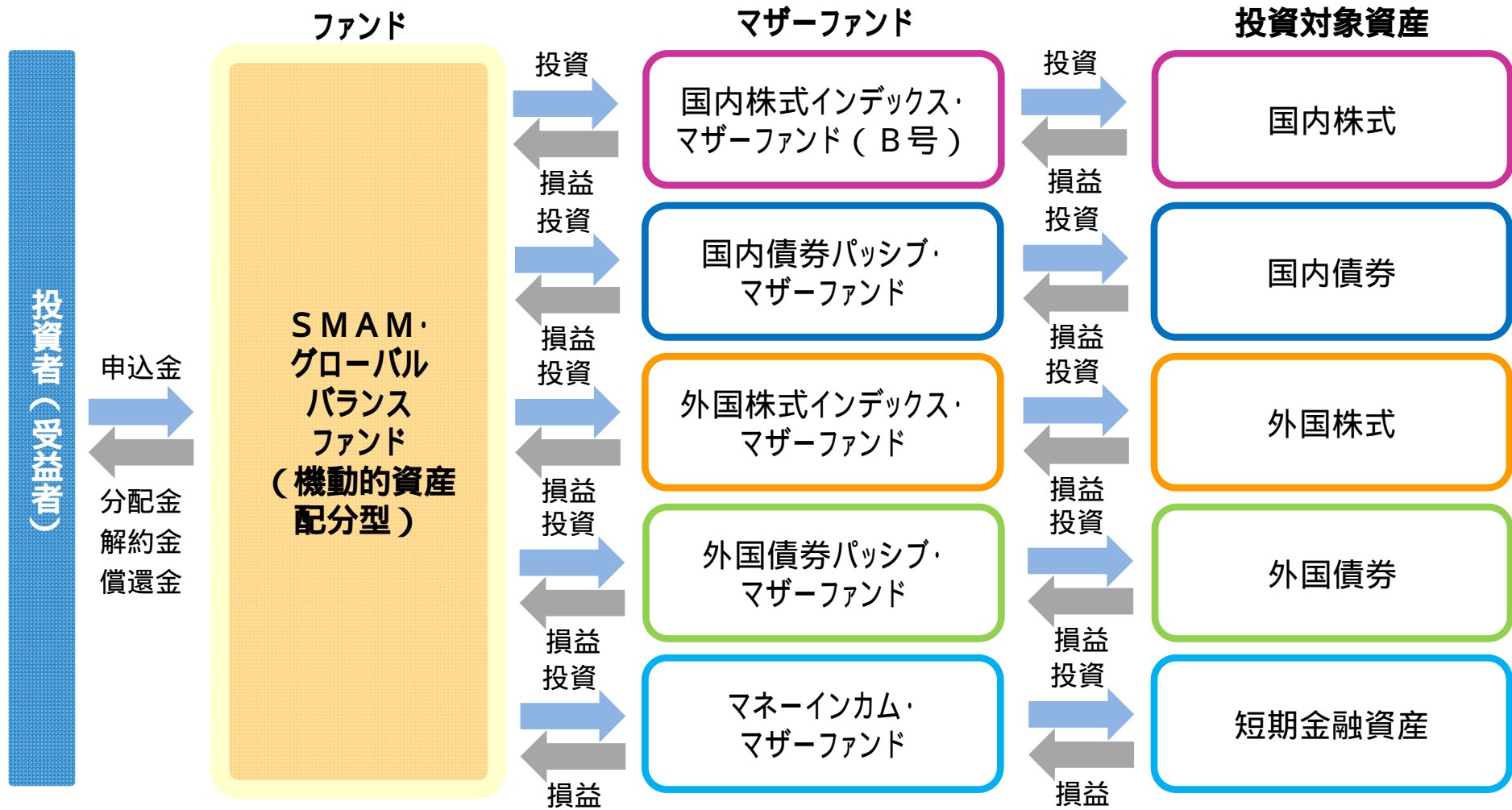
TOPIX（東証株価指数、配当込み）、NOMURA - BPI（総合）、MSCIコクサイインデックス、シティ世界国債インデックスは、それぞれ東京証券取引所、野村證券株式会社、MSCI Inc.、Citigroup Index LLCが公表している指数で各社の知的財産です。 指数を公表する各社は当ファンドの運用と何ら関係ありません。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

当ファンドについて

ファンドのしくみ

ファミリーファンド方式を採用し、マザーファンドの組入れを通じて、実際の運用を行います。



この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

マザーファンドの投資方針等

国内株式インデックス・マザーファンド（B号）

主として日本の株式に投資し、TOPIX（東証株価指数、配当込み）の動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。
東証1部銘柄の中から、原則として投資不適格銘柄および低流動性銘柄を除外した上で、最適化法¹によりポートフォリオを構築します。

国内債券パッシブ・マザーファンド

日本の公社債および短期金融資産を主要投資対象とし、NOMURA - BPI（総合）の動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。
層化抽出法²により、デュレーション³、満期構成、債券種別配分、事業債の格付け構成および業種を可能な限りNOMURA - BPI（総合）に近づけたポートフォリオを構築します。

外国株式インデックス・マザーファンド

主として日本を除く世界各国の株式に投資し、MSCIコクサイインデックス（円ベース）の動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。
MSCIコクサイインデックスの中から、原則として投資不適格銘柄および低流動性銘柄を除外した上で、最適化法によりポートフォリオを構築します。

外国債券パッシブ・マザーファンド

主として日本を除く世界各国の債券に投資し、シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）の動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。
層化抽出法により、通貨配分、国別配分、デュレーション、満期構成等を可能な限りシティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）に近づけたポートフォリオを構築します。

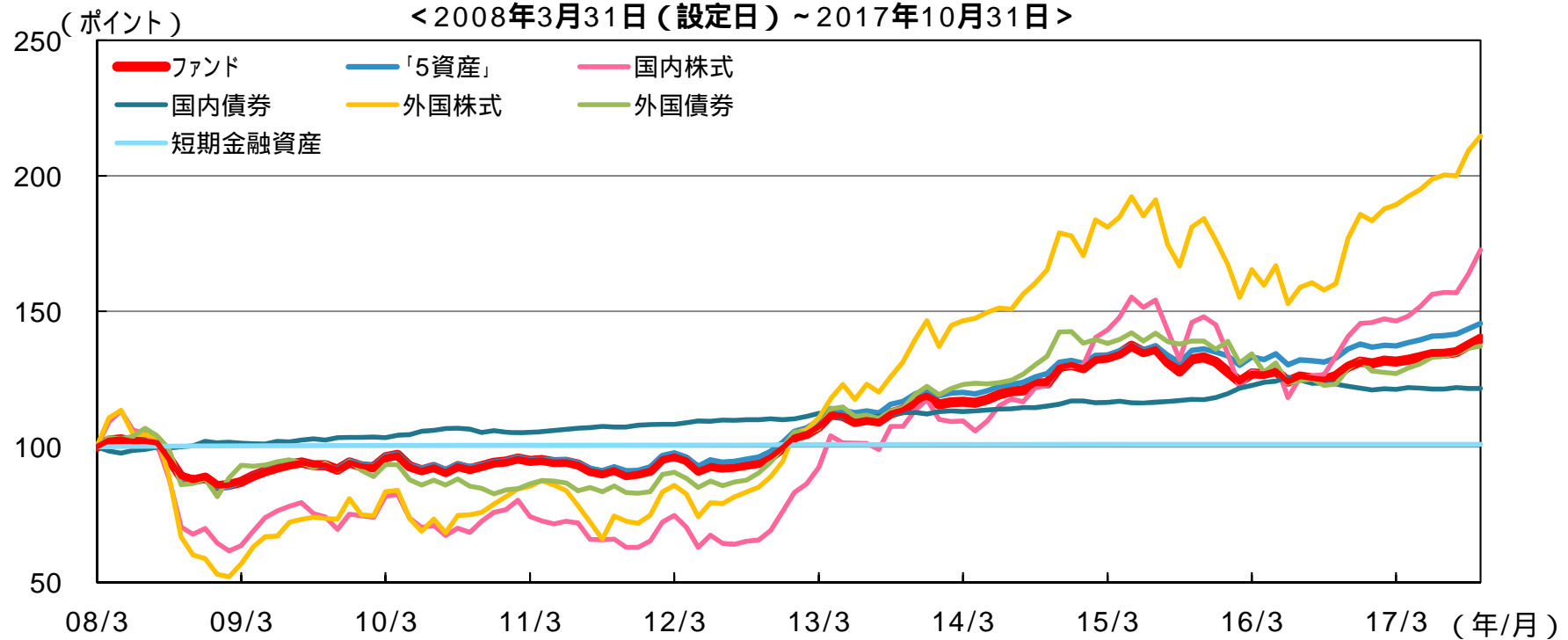
マネーインカム・マザーファンド

主として円貨建の短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行います。

- 1 最適化法とは計量モデル等に基づいて、インデックスとの連動性を保てるように一部の銘柄を抽出してポートフォリオを構築する方法です。信用不安が懸念される銘柄を排除することや少額でもポートフォリオを構築することができるメリットがあります。
- 2 層化抽出法とは指数を構成する銘柄をいくつかのグループ（層）に分け、それぞれのグループから代表銘柄を抽出してファンドを構築する方法です。指数を構成するすべての銘柄を保有する完全法に比べて、少ない銘柄数でポートフォリオを構築することができるため、銘柄入れ替えに伴う取引コストの抑制や、低流動性銘柄の組入れを避けることができるというメリットがあり、債券パッシブ運用に適しています。
- 3 デュレーションとは金利がある一定の割合で変動した場合、債券価格がどの程度変化するかを示す指標です。

ご参考 分散投資の効果 ~ 収益（リターン）の安定化が期待できます ~

各資産とファンドの累積投資収益率の推移



（注1）ファンドは、基準価額（1万口当たり、信託報酬控除後）を基に算出。

（注2）「国内株式」はTOPIX（東証株価指数、配当込み）、「国内債券」はNOMURA-BPI（総合）、「外国株式」はMSCIコクサイインデックス（円ベース）、「外国債券」はシティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）、「短期金融資産」は無担保コール翌日物を使用。

（注3）「5資産」は基本資産配分比率（国内株式：20%、国内債券：50%、外国株式：10%、外国債券：15%、短期金融資産：5%）で組み合わせたデータ。

（注4）データは設定日の前営業日を100として指数化。

（出所）FactSetのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

グラフ・データは、当ファンドの運用実績および過去のデータを基に委託会社が行ったシミュレーションの結果です。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。シミュレーションは一定の前提条件に基づくものであり、経費等は考慮されていません。実際の運用においては、市場動向等の諸条件が異なることによりパフォーマンス等は大きく異なります。

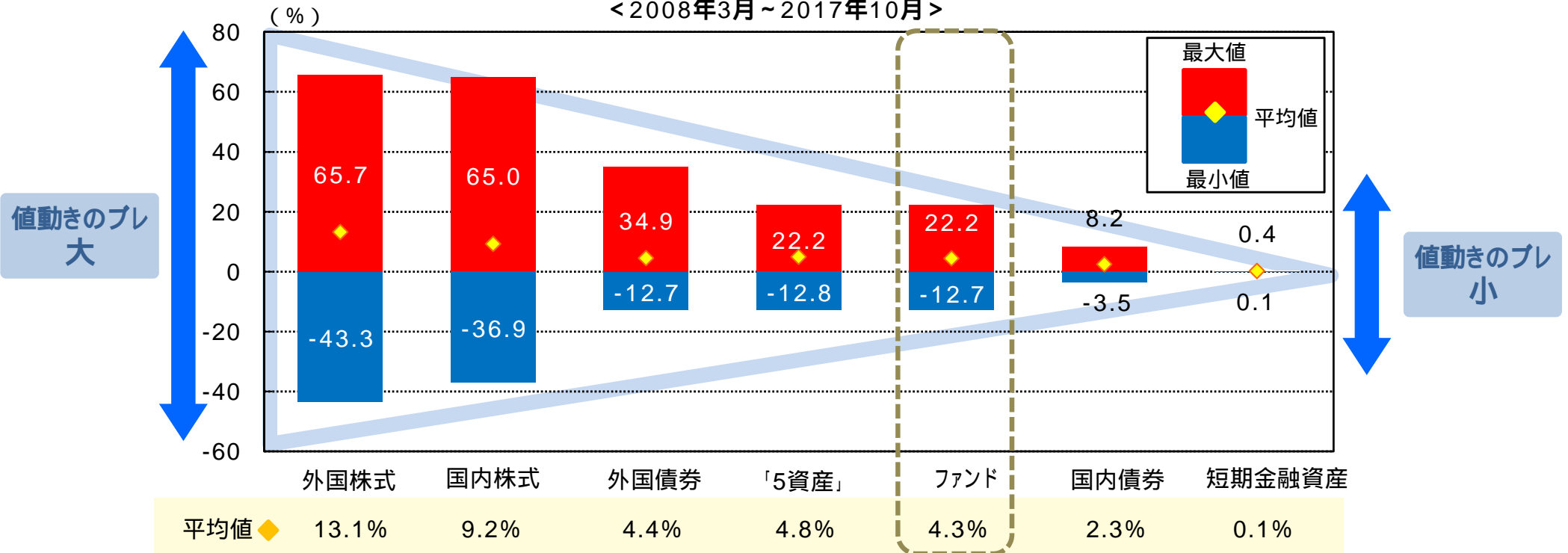
換金時には、費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

ご参考 分散投資の効果 ~ 値動き（リスク）の安定化が期待できます ~

各資産とファンドの1年間の騰落率の比較

< 2008年3月 ~ 2017年10月 >



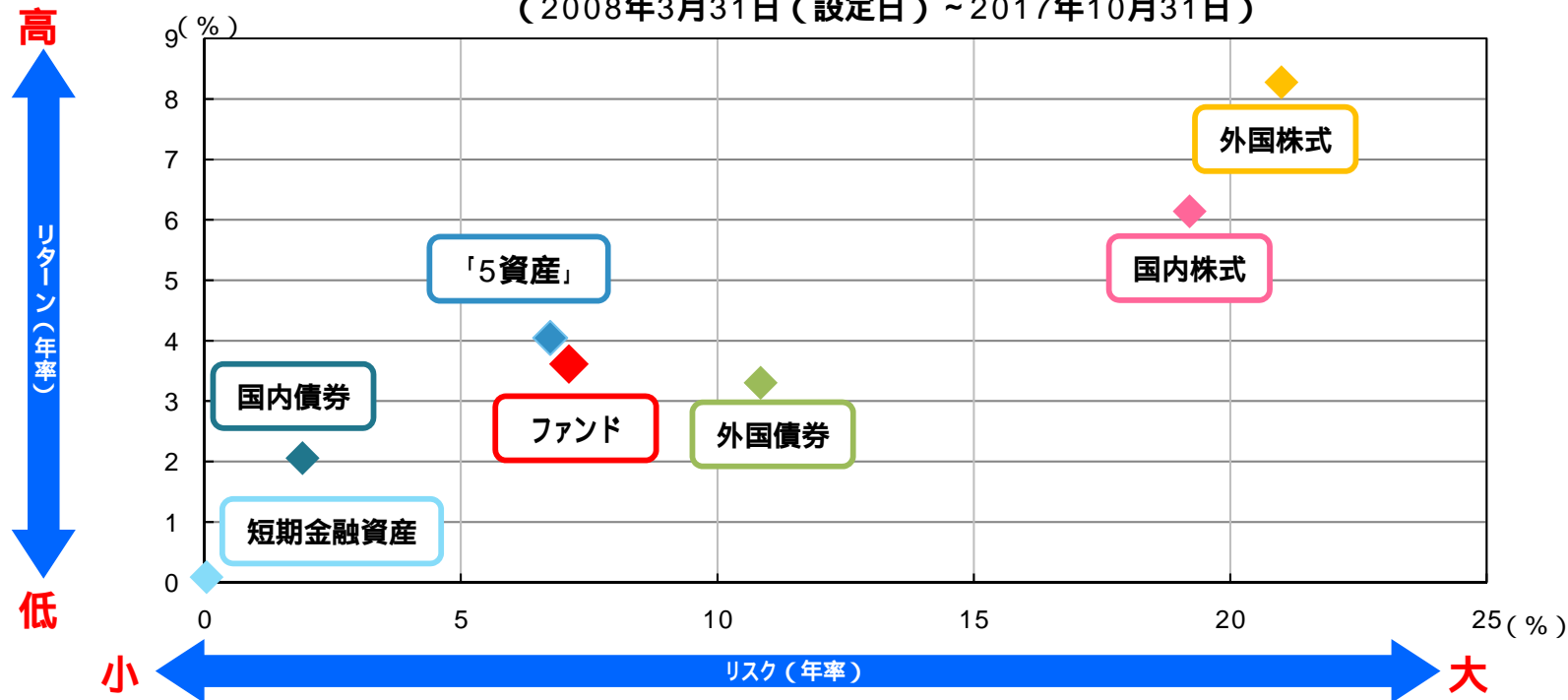
(注1) ファンドは、基準価額（1万円当たり、信託報酬控除後）を基に算出。
 (注2) 「国内株式」はTOPIX（東証株価指数、配当込み）、「国内債券」はNOMURA-BPI（総合）、「外国株式」はMSCIコクサイインデックス（円ベース）、「外国債券」はシティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）、「短期金融資産」は無担保コール翌日物を使用。
 (注3) 「5資産」は基本資産配分比率（国内株式:20%、国内債券:50%、外国株式:10%、外国債券:15%、短期金融資産:5%）で組み合わせたデータ。
 (注4) データは2009年3月～2017年10月の各月末時点から過去1年間の騰落率を基に算出。
 (出所) FactSetのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成
 グラフ・データは、当ファンドの運用実績および過去のデータを基に委託会社が行ったシミュレーションの結果です。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。シミュレーションは一定の前提条件に基づくものであり、経費等は考慮されていません。実際の運用においては、市場動向等の諸条件が異なることによりパフォーマンス等は大きく異なります。
 換金時には、費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

ご参考 分散投資の効果 ~リスクを抑制し、相対的に高いリターンが期待できます~

各資産とファンドのリスク・リターン比較

(2008年3月31日(設定日)~2017年10月31日)



(注1) ファンドは、基準価額(1万口当たり、信託報酬控除後)を基に算出。

(注2) 「国内株式」はTOPIX(東証株価指数、配当込み)、「国内債券」はNOMURA-BPI(総合)、「外国株式」はMSCIコクサイインデックス(円ベース)、「外国債券」はシティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)、「短期金融資産」は無担保コール翌日物を使用。

(注3) 「5資産」は基本資産配分比率(国内株式:20%、国内債券:50%、外国株式:10%、外国債券:15%、短期金融資産:5%)で組み合わせたデータ。

(注4) リターン(年率)は月次騰落率を、リスク(年率)は月次騰落率の標準偏差を、それぞれ年換算して算出。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

グラフ・データは、当ファンドの運用実績および過去のデータを基に委託会社が行ったシミュレーションの結果です。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。シミュレーションは一定の前提条件に基づくものであり、経費等は考慮されていません。実際の運用においては、市場動向等の諸条件が異なることによりパフォーマンス等は大きく異なります。

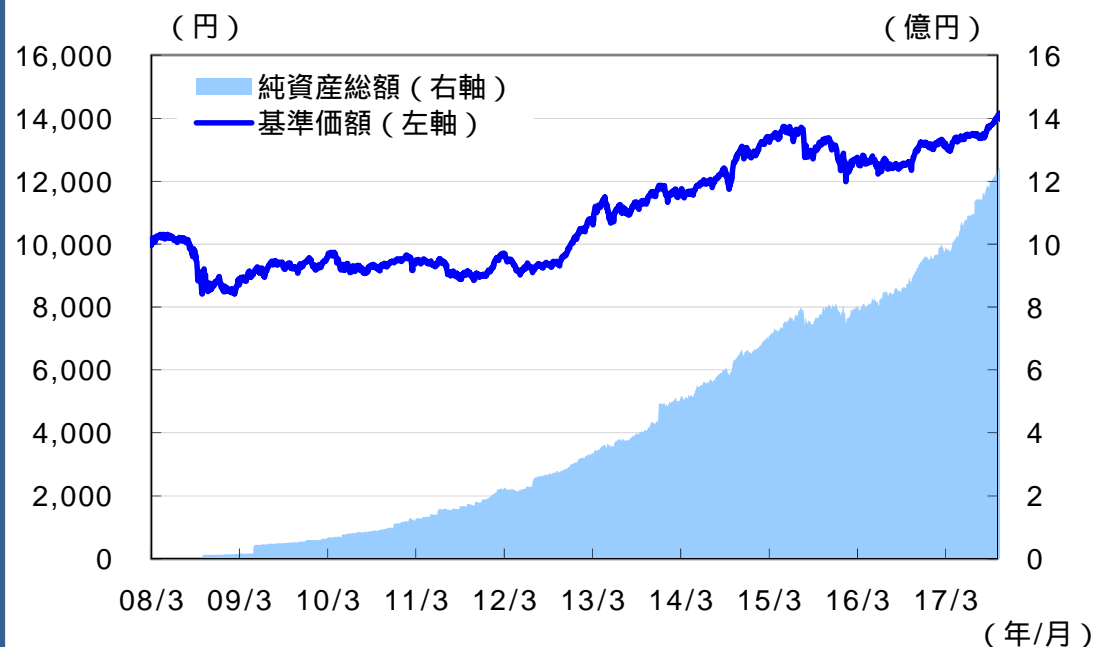
換金時には、費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

運用実績

基準価額・純資産総額の推移

期間：2008年3月31日（設定日）～2017年10月31日



（注）基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後です。
当ファンドは2017年10月末現在において分配を行っておりません。

上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。
換金時には、費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

基準日 2017年10月31日

主要な資産の状況

主要投資銘柄

国・地域	銘柄名	比率（％）
日本	国内債券パッシブ・マザーファンド	34.94
日本	国内株式インデックス・マザーファンド（B号）	28.16
日本	外国債券パッシブ・マザーファンド	18.81
日本	外国株式インデックス・マザーファンド	13.85
日本	マネーインカム・マザーファンド	3.93

（注）当ファンドの純資産総額を100%とした場合の比率です。

積立投資なら買うタイミングに悩まず、少額から分散投資が可能

積立投資ってどんなもの？

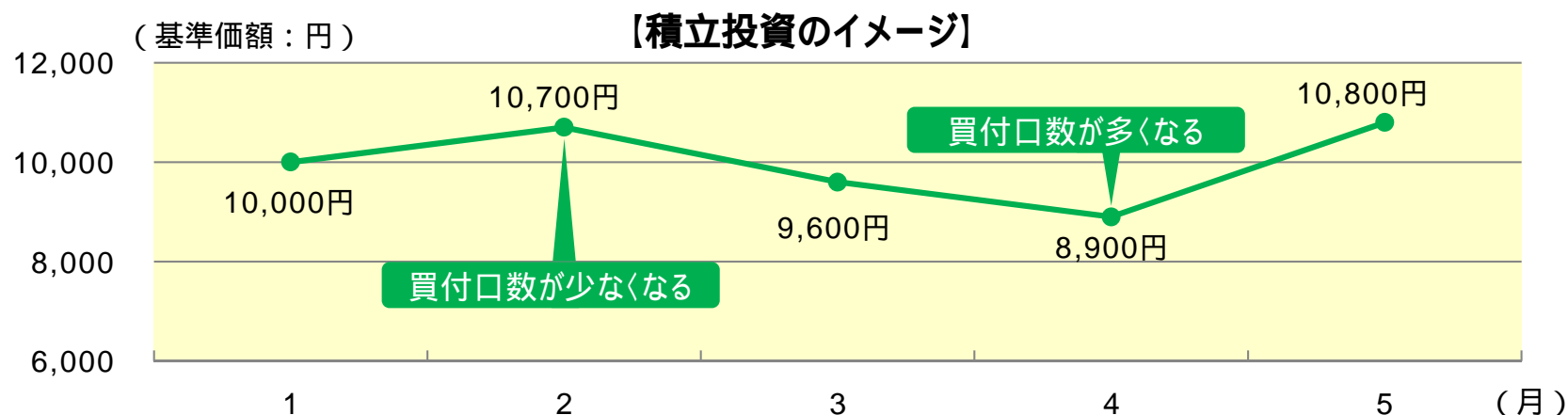
- 積立投資とは、価格が変動する商品（投資信託など）を定期的に一定額（自分で決めた額）買い付けていく投資方法です。投資金額を一定額とすることで、**買付数量は価格が高い時には少なく、価格が低い時には多くなります**。そのため、定期定額投資の効果により、投資時期による影響をより受けにくくなり、長期的に平均買付単価を低く抑えることが期待されます。
- また**月に数千円～1万円程度の少額の資金から投資**を始めることができるのも、積立投資の魅力のひとつです。

積立投資は、値動きに一喜一憂することなく、また相場の底値を気にせず資産形成を行える投資方法です。

【毎月10,000円ずつ買い付けた場合】

1万口あたりの 基準価額	10,000円	10,700円	9,600円	8,900円	10,800円	合計
投資口数	10,000口	9,346口	10,417口	11,236口	9,259口	50,258口
投資金額	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	50,000円

平均買付単価
約9,950円



上記は一定の前提条件に基づき、シミュレーションを行ったものであり、実際の投資成果ではありません。また、将来の成果を示唆あるいは保証するものでもありません。

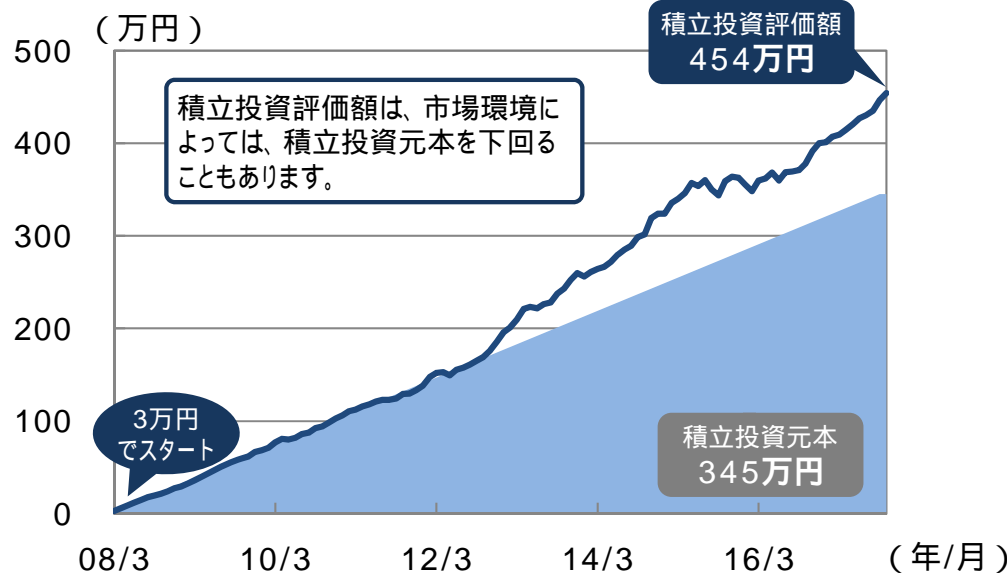
この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

当ファンドに毎月3万円ずつ投資したと仮定して、設定来、直近5年間の投資損益をシミュレーション

積立投資なら、購入するタイミングで悩む必要がないため いつでも投資を始めやすいというメリットがあります。

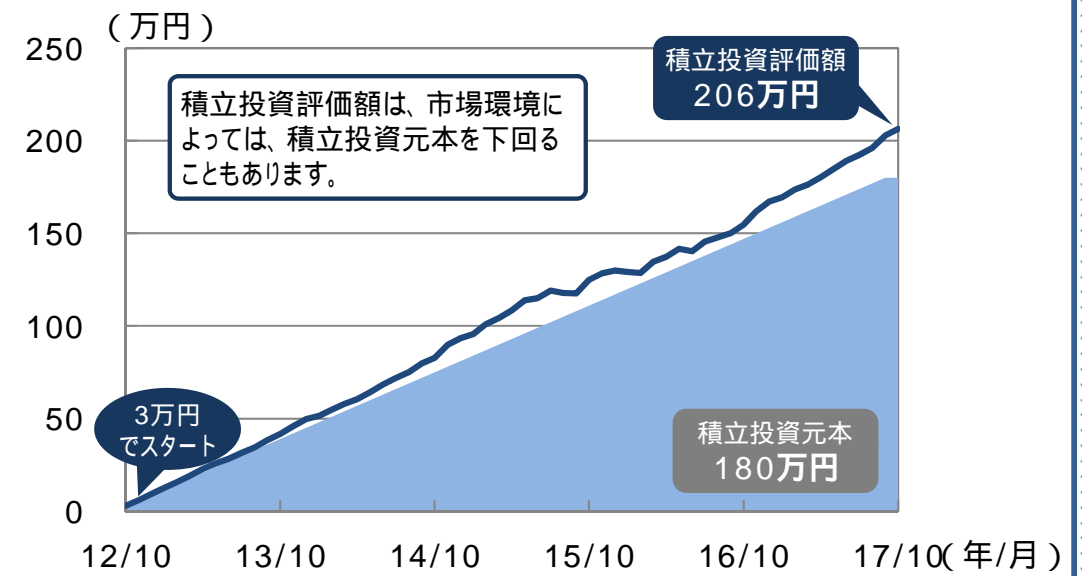
【設定来シミュレーション】

期間収益：31.6%



【5年間投資シミュレーション】

期間収益：14.7%



(注1) 左グラフのデータは2008年3月31日(設定日)～2017年10月31日。右グラフのデータは2012年10月31日～2017年10月31日。

(注2) 本シミュレーションは、毎月、一定金額を基準価額(1万口当たり、信託報酬控除後)で設定日、月末に投資し、分配金(税引前)はすべて再投資すると仮定して計算しています。ただし最終月は投資しません。なお、販売手数料等は考慮していません。

(注3) 期間収益は、最終月末の積立評価額を積立投資元本で除して計算。

上記は一定の前提条件に基づき、過去のデータを用いてシミュレーションを行ったものであり、実際の運用成果ではありません。また将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。投資信託は元本が保証された商品ではなく、積立スタート・換金のタイミングによっては収益が積立投資元本を割り込むことがあります。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

基準価額の変動要因

ファンドは、主に内外の株式、債券および短期金融資産を投資対象としています（マザーファンドを通じて間接的に投資する場合を含みます。）。ファンドの基準価額は、組み入れた株式や債券等の値動き、当該発行者の経営・財務状況の変化、為替相場の変動等の影響により上下します。**基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。

運用の結果としてファンドに生じた**利益および損失は、すべて受益者に帰属**します。したがって、ファンドは**預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく**、一定の投資成果を保証するものでもありません。ファンドの主要なリスクは、以下の通りです。

価格変動リスク

株式市場リスク... 株式の価格の下落は、基準価額の下落要因です

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況、これらに対する外部的評価の変化等によって変動し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。特に、企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合、当該企業の株式の価値が大きく下落し、基準価額が大きく下落する要因となります。

債券市場リスク... 債券の価格の下落は、基準価額の下落要因です

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により債券相場が下落（金利が上昇）した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、ファンドが保有する個々の債券については、下記「信用リスク」を負うことにもなります。

信用リスク... 債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です

ファンドが投資している有価証券や金融商品に債務不履行が発生あるいは懸念される場合に、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

為替変動リスク... 円高は基準価額の下落要因です

外貨建資産への投資は、円建資産に投資する場合の通常のリスクのほかに、為替変動による影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落（円高）する場合、円ベースでの評価額は下落することがあります。為替の変動（円高）は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

カントリーリスク... 投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です

海外に投資を行う場合には、投資する有価証券の発行者に起因するリスクのほか、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化や混乱などによって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

市場流動性リスク... 市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です

ファンドの資金流入に伴い、有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、必要な取引ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

当ファンドは「ファミリーファンド方式」により運用するため、当ファンドと同じマザーファンドを投資対象とする他のベビーファンドに追加設定・一部解約により資金の流出入が生じた場合、その結果として、当該マザーファンドにおいても組入有価証券の売買等が生じ、当ファンドの基準価額に影響を及ぼすことがあります。

ファンドのお申込みに関しては、クーリング・オフ制度の適用はありません。

投資資産の市場流動性が低下することにより投資資産の取引等が困難となった場合は、ファンドの換金申込みの受け付けを中止すること、および既に受け付けた換金申込みを取り消すことがあります。

Morningstar Award “Fund of the Year 2015”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象としてモーニングスター独自の定量分析、定性分析に基づき、2015年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。バランス(安定成長)型 部門は、2015年12月末において当該部門に属するファンド280本の中から選考されました。

分配方針

年1回（原則として毎年4月13日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配金額を決定します。
分配対象額は、経費控除後の配当等収益と有価証券売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。

委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。（基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。）

分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

お申込みメモ（詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

購入・換金の 申込受付日	原則として、いつでも購入、換金の申込みができます。
購入単位	（スポット購入の場合） 1万円以上1円単位 （定期積立プランの場合） 1千円以上1千円単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額となります。
換金単位	1円以上1円単位 または 1口以上1口単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額となります。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目以降にお支払いします。
決算および分配	年1回（毎年4月13日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配方針に基づき分配金額を決定します。 原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。
信託期間	無期限です。（信託設定日：2008年3月31日）
繰上償還	委託会社は、受益者にとって有利であると認めるとき、残存口数が1億口を下回ることとなったとき、その他やむを得ない事情が発生したときは、あらかじめ受益者に書面により通知する等の所定の手続きを経て、繰上償還させることがあります。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」、未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA（ニーサ）」の適用対象です。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。 配当控除の適用はありません。 上記は作成基準日現在の情報をもとに記載しています。税法が改正された場合等には、変更される場合があります。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

ファンドの費用等（詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

■ ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	無手数料です。
--------	---------

信託財産留保額	ありません。
---------	--------

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に年0.6372% (税抜き0.59%) の率を乗じた額
------------------	--

その他の費用・ 手数料	上記のほか、ファンドの監査費用や有価証券の売買時の手数料、資産を外国で保管する場合の費用等（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）が信託財産から支払われます。これらの費用に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用状況により変化するため、あらかじめ、その金額等を具体的に記載することはできません。
----------------	---

ファンドの費用（手数料等）の合計額、その上限額、計算方法等は、投資者の保有期間に応じて異なる等の理由により、あらかじめ具体的に記載することはできません。

■ 委託会社、その他の関係法人

委託会社	三井住友アセットマネジメント株式会社（ファンドの運用の指図等を行います。）
------	---------------------------------------

受託会社	三井住友信託銀行株式会社（ファンドの財産の保管および管理等を行います。）
------	--------------------------------------

販売会社	三井住友アセットマネジメント株式会社（ファンドの募集・販売の取扱い等を行います。）
------	---

重要な注意事項

当資料は三井住友アセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、当資料は三井住友アセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。

投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また三井住友アセットマネジメントでご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および目論見書補完書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等は販売会社にご請求ください。

この資料に評価機関等第三者による投資信託・運用者に対する評価・分析が掲載される場合、その評価・分析は過去の一定期間の実績を評価したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

三井住友アセットマネジメント株式会社

ご不明な点は下記にお問い合わせください。

お客さま専用フリーダイヤル 0120-45-1104 [受付時間] 営業日の午前9時～午後5時
ホームページ <http://tyokuhan-net.smam-jp.com>

作成基準日：2017年10月末

おかげさまで15周年、エヌエル



資産形成なら